

CHAPTER 01

20年間のあゆみ

2000（平成12）年に「骨と関節の10年」日本委員会が発足してから20年。「運動器」という言葉の定着、運動器が健康であることの重要性の啓発、運動器疾患の早期発見と予防体制の確立、という3つの目標を立て、着実に成果を上げてきました。現在は、顕彰事業、広報事業、運動器の健康推進事業等を遂行中です。ここでは各年代のあゆみを振り返ります。

1994

平成6年

日本整形外科学会（以下、日整会）が10月8日を「骨と関節の日」と定める

1998

平成10年

スウェーデン・ルンド大学リドグレン教授が「Bone and Joint Decade」を提唱

1999

平成11年

国連のアナン事務総長が支持を表明

「運動器疾患は長期にわたる強い苦痛と不自由の最大の原因であり、世界中の人々がこれに苦しんでいる。そしてそのことが個人だけでなく、社会・医療にとって巨大な負担であり社会経済に及ぼす影響も極めて大きい」（アナン事務総長）



右・リドグレン教授、左・アナン事務総長

6月18日 日整会「第1回BJD2000-2010部会」を開催

場所：東京ステーションホテル

6月30日 日整会「第2回BJD2000-2010部会」を開催

場所：ホテル国際観光「楓の間」

2000

平成12年

WHOにより正式に

「Bone and Joint Decade 2000-2010」発足を宣言

「運動器の10年」世界運動 7つの目標が掲げられる

1. 2000-2010の10年を「運動器の10年」と表明する
2. 運動器の障害が社会に大きな負担をもたらしていることを世界に喚起する
3. 運動器の障害をもつ人々やその家族が自らの健康管理に参加し、健やかさを保てるよう支援する
4. 運動器の障害に対しての真に有効な予防と治療を推進する
5. 運動器の障害を解明し、予防と治療の研究を深める
6. 運動器の障害のケアに携わる専門職業人の教育・研修を普及する
7. これらの目標を達成するために、政府機関、非政府機関、学術機関、企業、メディアの相互連携を推進する

5月 日整会、日本脊椎外科学会、日本骨粗鬆症学会など45学術団体からなる日本委員会が発足

初代委員長に日整会理事長・黒川高秀先生が指名された。

8月25日 第1回「骨と関節の10年」日本委員会総会を開催

日整会3名、関東整形災害外科学会ほか31団体31名が出席した。
場所：ホテル国際観光「寿の間」

11月26～28日 第1回Bone & Joint Decade World Network Conference（以下、BJD国際会議）がオマーンにて開催

2001

平成13年

3月18日 WHO「運動器の10年」キャンペーンシンポジウムを開催

場所：よみうりホール

10月5日 第1回「骨と関節の10年」日本委員会・運営委員会を開催

初代運営委員長に河合伸也委員が選任された。
場所：東京ステーションホテル「蘭の間」

2002

平成14年

2月19日 第3回「骨と関節の10年」日本委員会・運営委員会を開催

場所：第一ホテル 東京シーフォート「清澄の間」

第2回「骨と関節の10年」日本委員会総会を開催

のちの名称変更によりこの総会を第1回「運動器の10年」日本委員会総会とした。黒川高秀委員長、河合伸也運営委員長、日本委員会参加団体から24名が出席した。「Bone and Joint Decade」の邦訳を「運動器の10年」とする。
場所：第一ホテル 東京シーフォート「ハーバーサーカス」

3月18日 WHO「運動器の10年」キャンペーンシンポジウムを開催

場所：よみうりホール

5月20日 第4回「運動器の10年」日本委員会・運営委員会を開催

場所：朝日新聞記念館 有楽町談話室

9月12～14日 第2回BJD国際会議がブラジル・リオデジャネイロにて開催

「運動器の10年」世界宣言（リオデジャネイロ宣言）が行われた。

10月19・20日 「運動器フォーラム 2002」を明治神宮会館で開催

第1日目は、「運動器の10年世界宣言」と有名人を交えて運動器の意義と役割をわかりやすく説明した。

後援は、厚生労働省、NHK、朝日新聞社、ミズノ株式会社、日本ウオーキング協会



オープニング



ディスカッション

2003

平成 15 年

- 6月22日 **第2回「運動器の10年」日本委員会総会を開催**
河合伸也運営委員長、日本委員会参加団体から21名が参加した。
場所：芝パークホテル「牡丹」
- 8月10日 **平成15年度 第3回 運営委員会を開催**
第2代日本委員会委員長に杉岡洋一氏が選任された。
場所：日整会会議室
- 10月11～18日 **「運動器フォーラム2003」を仙台・大阪で開催**
10月11日、仙台にて「運動器フォーラム2003・仙台」を開催した。
フォーラム終了後市民に運動器障害の克服を訴えるため、街頭パレードを行った。
10月18日、大阪にて「運動器フォーラム2003・大阪」を開催した。
健康相談や座談会、健康体操の実演指導などを行った。



仙台フォーラム



仙台フォーラムでのパレード



大阪フォーラム

- 10月29・30日 **第3回BJD国際会議がドイツ・ベルリンにて開催**

2004

平成 16 年

- 4月 **国策「健康フロンティア戦略」(2005~2015)に運動器の健康向上が織り込まれる**
- 6月5日 **第3回「運動器の10年」日本委員会総会を開催**
杉岡洋一委員長、河合伸也運営委員長、ほか日本委員会参加団体から29名が出席した。
場所：芝パークホテル「牡丹」
- 9月 **「運動器の10年」のキャッチフレーズの募集を開始**
- 9月24・25日 **第4回BJD国際会議が中国・北京にて開催**
北京世界ネットワーク会議はそのテーマを“活動する「運動器の10年」”とした北京宣言を行った。
- 10月9～11月6日 **「運動器フォーラム2004」を新潟、札幌、岡山、福岡、東京で開催**
各地で講演やパネルディスカッション、医療相談、骨密度測定などを実施し、延べ3,000人近くの来場者があった。



岡山フォーラムのポスター



福岡会場での秋山幸二選手

日本学術会議で「運動器健康の重要性」が採択

- 11月24日 **厚生労働省田中慶司健康局長名で、運動器疾患克服に向けた「運動器の10年」日本委員会の活動が正式に国から承認**
- 12月22日 **「運動器の10年」世界運動をわが国政府（厚生労働省）として支援する旨の11月24日付け厚生労働省健康局長の声明文がBJD本部によって認められ、政府支援国58カ国に加えられたことが報告**

2005

平成 17 年

- 1月18日 **「運動器の10年」のキャッチフレーズ選考会を開催**
審査員に原島博氏（東京大学工学部電気情報工学科教授 日本顔学会設立発起人理事）、小野田隆雄氏（東京コピーライターズクラブ副理事長 資生堂・サントリーなど）、中山雅史氏（Jリーグ・ジュピロ磐田所属）、沢松和子氏（元ウィンブルドン・ダブルス勝者）、黛まどか氏（俳人 俳句甲子園などの主宰者）
- 2月10日 **「運動器の10年」キャッチフレーズが決定**
本委員会にて最優秀作品に「動く喜び 動ける幸せ」（武田邦彦さんの作品）が決定した。
キャッチフレーズ選考結果は以下の通りとなった。

- 最優秀作品 動く喜び 動ける幸せ
- 優秀作品 運動器、支えて動かす、筋・骨・関（キン・コン・カン）
- 優秀作品 棺おけまであるいてゆこう
- 佳作 生涯現役 支える基本は 運動器 / 中山雅史選
- 佳作 医師じゃなく「意志」が動かす運動器 / 小野田隆雄選
- 佳作 あなたを動かす あなたが動かす 運動器 / 黛まどか選
- 佳作 長生き・いきいき・運動器 / 原島博選
- 佳作 思うまま 動ける 幸せ 運動器 / 沢松和子選

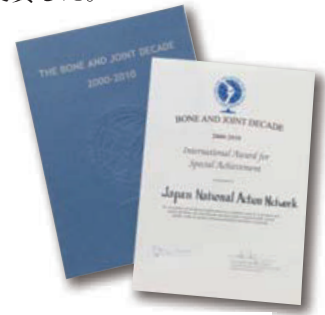
- 4月5日 **国策「介護予防10カ年戦略」三本柱一つに「運動器の健康維持向上」が採択**

- 5月 **『マンガ 運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』を発刊**
本委員会の教育・普及活動の一環として、特別賛助会員：エーザイ株式会社の協力を得て、『マンガ 運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』を発刊した。
東京大学教育学部の学生が構成・執筆した。全国の小学校等へ計15万部無償配布する。



- 6月26日 **第4回「運動器の10年」日本委員会総会を開催**
杉岡洋一委員長、河合伸也運営委員長、日本委員会参加団体から40名が出席した。
場所：芝パークホテル本館「桜の間」

10月26～28日 **第5回 BJD 国際会議がカナダ・オタワにて開催され、International Award for Special Achievement を受賞**
 本委員会より発行された『マンガ 運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』（英語版）を使った教育・啓発活動を世界会議で発表した。
 この活動に対し、WHO からの出席者をはじめ多くの参加者に関心を持たれた。また、国内外での日本委員会の活動が評価され、“International Award for Special Achievement” を受賞した。



“International Award for Special Achievement” の賞状（副賞は、14,000US ドル）

12月1日 **平成17年度 第4回 運営委員会を開催**
 運営委員長に松下隆氏、運営副委員長に武藤芳照氏、総務委員長に稲波弘彦氏が就任した。本委員会に、①総務委員会、②渉外・広報委員会、③規約等委員会、④国際委員会、⑤インターネット委員会、⑥学校保健委員会、⑦スポーツ普及・振興委員会、⑧地域推進委員会、⑨運動器疾患患者の会委員会の9つの小委員会を組織した。
 また、新たに3つの事業展開を始めることとした。
 1. 「成長期スポーツ傷害予防」講習会の講師派遣事業
 2. 学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業
 3. 47各都道府県ごとに「運動器の10年」地域推進委員会設置
 場所：品川イーストワンタワー 会議室

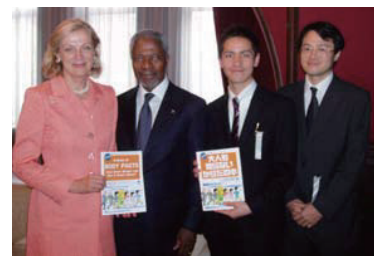
2006 1月
平成18年

久光製薬株式会社の協力を得て『ご存知ですか？運動器』1万部発刊



『ご存知ですか？運動器』と付録 CD-ROM

5月18日 **国連のアナン事務総長の東京大学名誉博士称号授与式ならびに記念講演会が東京大学安田講堂にて開催**
 『マンガ 運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』を制作した学生7人を代表して鎌田真光氏がアナン氏と面会し、「運動器の10年」日本委員会の活動について直接報告を行った。



左より、アナン夫人、アナン氏、鎌田氏、多賀巖太郎助教授（身体教育学コース）

7月1日 **第5回「運動器の10年」日本委員会総会を開催**
 杉岡洋一委員長、松下隆運営委員長、日本委員会参加団体から52名が出席した。
 場所：芝パークホテル本館「牡丹の間」

10月8・9日 **社団法人日本ウオーキング協会、毎日新聞社、本委員会の合同主催で、「運動器の10年・コツコツウオーク2006」を東京、大阪、福島の3都市で開催**



「コツコツウオーク」記念Tシャツ

11月2～4日 **第6回 BJD 国際会議が南アフリカ・ダーバンにて開催され、国分正一 BJD アンバサダーが出席**

11月6日 **文部科学省に対し、「学校における運動器検診の整備・充実」に関する説明・陳情**
 文部科学省のスポーツ・青少年局、樋口修資局長を、杉岡洋一委員長、武藤芳照運営副委員長が訪問、面談し、「学校における運動器検診の整備・充実」に関する説明・陳情を行った。



中央・樋口局長、左・杉岡委員長、右・武藤運営副委員長

2007 6月5日
平成19年

6月5日 **第6回「運動器の10年」日本委員会総会を開催**
 杉岡洋一委員長、松下隆運営委員長、運営委員11名、日本委員会参加団体から34名が出席した。
 場所：ロイヤルパークホテル「東雲」

6月15～8月5日 **「運動器の10年」世界運動キャンペーン 第1弾『ユーラシア大陸9カ国18,000キロメートル横断』に、日本委員会が後援**
 冒険家・風間深志氏が運動器の大切さを訴え、距離18,000km（ロシア～ウクライナ～ポーランド～ドイツ～オーストリア～スイス～フランス～スペイン～ポルトガル）の計9カ国をスクーターで横断した。



ゴールのロカ岬（ポルトガル）では、原聰大使をはじめ、現地の日本人会の皆様が出迎えてくれた。



9カ国をスクーターで横断する冒険家の風間氏

9月 **オルソタイムズ Vol.1 のNo.1に「運動器の10年」世界運動、および、日本委員会について掲載**

9月15日 **平成19年度 第2回 運営委員会を開催**
 「運動器の10年」日本委員会の「基本大目標を達成するための新規プロジェクト」推進事業が以下のように決定された。
 「基本大目標を達成するための新規プロジェクト」
 「健康寿命の延伸に関わる調査研究」
 場所：日整会会議室

10月11～14日 **第7回 BJD 国際会議がオーストラリア・ゴールドコーストにて開催**
 40カ国の各国代表者が集まった。『マンガ 運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』の英語版等をレポートした日本委員会の e-Poster が、BJD 国際会議で「e-Poster Award」を受賞した。



日本の e-Poster の前で。左から、鎌田氏、松下運営委員長、国分国際運営委員、リドグレン国際委員長

2008

平成20年

1月17日 文部科学大臣に提出された中央教育審議会答申に、『「運動器」とは、骨・関節、筋肉、靭帯、腱、神経など身体を支えたり動かしたりする器官の名称（「運動器の10年」日本委員会）』が記載

5月 杉岡洋一委員長が、厚生労働省健康局長・西山正徳氏に「運動器疾患対策室」を新設することの要望

6月22日 **第7回「運動器の10年」日本委員会総会を開催**
 杉岡洋一委員長、松下隆運営委員長、運営委員11名、日本委員会参加団体39名が参加した。
 場所：東京ステーションコンファレンス602

9月11日 杉岡洋一委員長、葉梨之紀アドバイザー、稲波弘彦委員の3名が厚生労働副大臣・鴨下一郎氏を訪問し、「運動器疾患対策室」を新設、外傷センター等について要請

10月～翌1月 「運動器の10年」世界運動キャンペーン
第2弾『アフリカ大陸縦断10カ国21,000Km』
 ユーラシア大陸横断に続き風間深志氏がアフリカ大陸を四輪駆動車で縦断した。
 この世界運動キャンペーンを外務省、日本委員会が後援した。
 風間氏は国際本部から正式に Bone and Joint Decade International Ambassador に任命された。



エチオピアの病院で治療中の子どもたちと

10月13日 **「コツコツウオーク in 岡山」を開催**
 学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業に、新たに埼玉県、愛媛県が加わり、全8地域に拡大した。

11月28・29日 **第8回 BJD 国際会議がインド・プーネにて開催**

2009

平成21年

1月10日 「運動器の10年」日本委員会シンポジウム
「トップアスリートの障害予防とコンディショニングの実態」を開催
 コーディネーターに栗山英樹氏（スポーツキャスター）、福林徹氏（早稲田大学スポーツ科学学術院教授）、パネリストに朝原宣治氏（陸上短距離競技）、工藤公康氏（プロ野球）、谷本歩実氏（柔道）が参加した。
 この模様は、2月15日テレビ（スカイ・A・sports）にて放映された。
 場所：浜離宮朝日ホール



工藤投手の色紙とシンポジウムのチラシ

3月31日 『学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き』第1版（「運動器の10年」日本委員会監修）が財団法人日本学校保健会より発行

6月21日 **第8回「運動器の10年」日本委員会総会を開催**
 杉岡洋一委員長、松下隆運営委員長、運営委員12名、参加団体ほか32名が出席した。
 場所：東京ステーションコンファレンス602

8月22～10月19日 「運動器の10年」世界運動キャンペーン
第3弾『オーストラリア大陸障害者自転車横断』
 Bone and Joint Decade International Ambassador の風間深志氏が全チームのリーダーとなり、障害があるメンバー3名と整形外科医師とともに、電動アシスト自転車によるオーストラリア大陸横断を実現した。
 日本委員会が共催、朝日新聞が後援で実施された。



8月31日、目指すは180km先のノースマン



5151.3km シドニーにゴール

10月21・22日 **第9回 BJD 国際会議がアメリカ・ワシントン DCにて開催**

12月10日 **平成21年度 第3回 運営委員会を開催**
 山本博司氏が日本委員会の3代目の委員長に選任された。
 場所：日整会会議室

2010

平成 22 年

2月19日 山本博司委員長、武藤芳照運営副委員長の2名が、文部科学省の高井美穂政務官と面接し、文部科学大臣・川端達夫氏宛の「学校における健康診断の改善」について要望 (3月10日 民主党幹事長・小沢一郎氏、4月5日 日本医師会会長・原中勝征氏に同要望)

2月21～4月16日 「運動器の10年」世界運動日本国内キャンペーン 第3.5弾『障害者100人による日本縦断駅伝』 2000-2010の締めくくりとして、日本国内において「運動器の10年」世界運動のさらなる周知徹底を目的として実施した。沖縄から北海道まで2,300km、127名の障害者が自転車・車イス・ハンドサイクル等によってタスキをつないだ。



タスキの中継

5～9月 「運動器の10年」世界キャンペーン 第4弾『南北アメリカ大陸縦断・北ヨーロッパ横断』 4年間に及んだ世界キャンペーンの最終章として、風間深志氏が5～9月に実施した。南米アルゼンチンからゴールのスウェーデンまで10カ国、17,000kmをスクーター、自転車で走破した。「第10回 World Network Conference」の前日、スウェーデン・ルンドの大会会場にゴールした。

5月30日 「運動器の10年」世界運動(2000-2010)記念イベントを開催 参加団体日本整形外科学会とともに「10年100年イベント」を東京国際フォーラムの「地上広場」と「よみうりホール」で開催し、ロコモティブシンドロームをはじめとする運動器健康推進を国民にアピールした。



バンダイナムコ社のゲームを使ったロコモ予防

6月26日 第9回「運動器の10年」日本委員会総会を開催 山本博司委員長、松下隆運営委員長ほか、運営委員13名、参加団体ほか42名が出席した。場所：東京ステーションコンファレンス

9月10・11日 第10回BJD国際会議がスウェーデンのルンドにて開催 日本は「BJD 2000-2010 International Award for Special Achievement」を受賞した。



オーストラリア自転車横断メンバーも駆けつけたルンドにゴールした。みんなで記念撮影

2011

平成 23 年

2月 山本博司理事長就任
2月5日 設立時評議員会
2月24日 第1回(設立時)理事会(如水会館) 一般財団法人として定款定める
3月12日 「運動器の10年」日本委員会10周年記念式典



東京都千代田区・学士会館で『10周年式典』を行った



『10周年式典』で挨拶する山本委員長

4月1日 BJD国際本部のロゴマーク変更により意匠変更とロゴマーク使用規程制定
4月1日 一般財団法人運動器の10年・日本協会設立
4月21日 第2回理事会(本郷ハイツ) 会員会費規程等諸規程を制定
7月30日 第3回理事会(如水会館) 第1回会員連絡協議会(如水会館)



財団になって初めての会員連絡協議会

8月1日 運動器の健康をサポートするフリーマガジン『Moving』第1号創刊 協会初の広報季刊誌となる本誌は、俳優の藤本隆宏さんと日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会委員長、日本パラリンピアンズ協会会長の河合純一さんのスペシャル対談から始まった。



『Moving』創刊号

9月23日 第一三共株式会社が日本経済新聞社の全面広告で「運動器の重要性」と題して当協会の活動を紹介
10月27日 第4回理事会(日整会会議室)

- 11月1日 『Moving』第2号発刊
- 11月16日 中川正春文部科学大臣・布村幸彦スポーツ・青少年局長宛に「学校における健康診断の改善」要望書を提出



左が武藤理事、右奥に布村氏

- 12月10日 成長期のスポーツ外傷予防啓発委員会による全日本軟式野球連盟と共催で全国9地区の少年野球指導者講習会への講師派遣事業が始まる

2012

平成24年

- 1月26日 第1回理事会（日整会会議室）
- 2月1日 『Moving』第3号発刊
- 2月4日 第1回定時評議員会（学士会館）
- 2月9日 BJD国際会議がサンフランシスコで開催され、越智光夫理事と松下隆専務理事が出席
- 3月 運動器疼痛対策：HPで『私たちの「運動器の痛み」について考えてみよう』で、痛みについて解説を掲載
- 4月 風間深志氏の「障害者日本縦断駅伝完結編」を支援
- 4月8日 第2回理事会（如水会館）



左から、稲波理事、松下専務理事、山本理事長

- 第2回会員連絡協議会（如水会館）
- 5月1日 『Moving』第4号発刊
- 7月6日 第3回理事会（日整会会議室）
- 8月1日 『Moving』第5号発刊
- 10月 救急外傷センター創設に関する委員会メンバーが韓国と香港の実態を視察、調査
- 10月 転倒予防医学研究会と広告共同事業として「10月10日は転倒予防の日」を朝日新聞全国版に掲載
- 11月1日 『Moving』第6号発刊
- 11月2日 第4回理事会（日整会会議室）
- 11月19日 文部科学省の『今後の健康診断のあり方等に関する検討会』に武藤芳照理事と内尾祐司学校保健委員長が出席、運動器検診体制の整備を要望
成長期のスポーツ外傷予防啓発委員会が、全日本野球連盟傘下の少年野球7団体代表者と懇談会を開催、現状の障害予防の取り組みを調査
- 11月30日 BJD国際会議がベトナム・ホーチミンにて開催され、山本博司理事長と松下隆専務理事が出席
- 12月 久光製薬株式会社が2003年からこの年まで「久光製薬は運動器の10年世界運動を支援しています」のテレビCMスポットを約6,000回露出
- 12月8日 第2回定時評議員会（如水会館）

2013

平成25年

- 1月25日 第5回理事会（明治記念館）
平成24年度第1回「運動器の10年・日本賞」表彰式（明治記念館）



顕彰事業「運動器の10年・日本賞」で初めて表彰式を行う

- 2月1日 『Moving』第7号発刊
- 2月2日 第3回定時評議員会（学士会館）理事の任期満了による改選
第1回理事会（学士会館）山本博司理事長の後任に河合伸也氏就任
- 3月 河合伸也理事長就任に伴い「協会活動リーフレット」改訂、5,000部制作
- 3月29日 「スクールトレーナー」商標登録

スクールトレーナーとは、小・中・高等学校の「スクール」の教育現場で、「トレーナー」として児童生徒の運動器疾患・障害の予防教育や保健指導に携わる専門家を表現している。スクールトレーナーが全国の学校に国の制度として配置され、運動器に関する正しい知識の提供、運動器疾患・障害の特徴とその予防・提言のための知識と正しい運動、スポーツトレーニングの仕方等の指導・教育がなされる仕組み作りを目指す。

スクールトレーナーの商標登録証



- 4月7日 第2回理事会（如水会館）
第3回会員連絡協議会（如水会館）
- 5月 エーザイ株式会社の協力で、2005年初版の『マンガ 運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』を2万部増刷
- 5月1日 『Moving』第8号発刊
- 5月15日 当協会がロコモティブシンドローム認知度調査を開始→P29参照
- 7月 中高年の運動器健康推進事業で冊子『骨粗鬆症のおはなし』を発行、市民公開講座で配布
- 7月4日 第3回理事会（学士会館）
- 7月11～13日 BJD国際会議がブラジル・リオデジャネイロにて開催され、岡田真平理事、内尾祐司学校保健委員長が出席
- 8月1日 『Moving』第9号発刊
- 9月 成長期の野球障害の予防を目的に、少年野球選手のセルフチェック啓発資料5万部制作・配布

この少年野球選手のセルフチェックシートは、久光製薬株式会社の協力により制作された。とくに選手に多い障害部位である肩、肘の内側・外側を自分でチェックする方法を掲載している。

毎週月曜日にセルフチェックをすることを薦めるシート



- 11月 運動器外傷の救急医療に関する委員会メンバーをオーストラリアに派遣、実態調査実施
- 11月1日 『Moving』第10号発刊
- 11月7日 第4回理事会（学士会館）
- 12月7日 臨時評議員会（如水会館）

2014

平成26年

- 2月1日 第1回理事会（明治記念館）
平成25年度第2回「運動器の10年・日本賞」表彰式（明治記念館）
『Moving』第11号発刊
- 2月8日 第4回定時評議員会（学士会館）
- 4月6日 第2回理事会（如水会館）
第4回会員連絡協議会（如水会館）
- 5月1日 『Moving』第12号発刊
- 7月3日 第3回理事会（如水会館）
- 8月 第1次「少年野球（軟式・硬式）実態調査」開始
- 8月1日 『Moving』第13号発刊
- 10月12・13日 BJD国際会議がイギリス・ロンドンにて開催され、松下隆専務理事と山本智章脆弱性骨折予防委員長が出席
- 11月1日 『Moving』第14号発刊
- 11月27日 第4回理事会（如水会館）
- 12月6日 臨時評議員会（学士会館）



国際会議に提出した e-Poster

2015

平成27年

- 1月24日 第5回理事会（明治記念館）
平成26年度第3回「運動器の10年・日本賞」表彰式（明治記念館）



河合理事長による「運動器の10年・日本賞」表彰式

- 2月1日 役員等候補選出委員会（学士会館）
- 2月1日 『学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き』改訂版1万部制作
- 2月7日 第5回定時評議員会（如水会館）理事・監事・評議員の任期満了による改選
第1回理事会（如水会館）河合伸也理事長を再選
- 3月28日 『Moving』第15号発刊
- 4月5日 第1次「少年野球（軟式・硬式）実態調査」結果発表
- 4月5日 第2回理事会（如水会館）
第5回会員連絡協議会（如水会館）
- 4月25日 ロコモティブシンドローム認知度調査開始→P29参照
- 6月1日 『Moving』第16号発刊
- 7月2日 第3回理事会（如水会館）河合伸也理事長辞任、後任に岩本幸英理事長就任
- 8月 第2次「少年野球（軟式・硬式）実態調査」開始
- 9月1日 『Moving』第17号発刊
- 10月 学校保健委員会でこれまでの事業を整備し、『学校の運動器検診体制の整備・充実事業に関わる資料集成』を発行

全国1万人のアンケートによる「ロコモティブシンドローム」認知度調査結果と推移

2015（平成27）年、「ロコモチャレンジ！推進協議会」から調査実施依頼を受け、当協会では毎年、「ロコモティブシンドローム認知度調査」を実施してきました。

「ロコモチャレンジ！推進協議会」とは、2010（平成22）年8月に公益社団法人日本整形外科学会と株式会社博報堂がロコモ予防推進を目的に立ち上げた協議会です。

ロコモティブシンドローム認知度調査については「中立な調査主体でロコモの認知度を把握することが大事」という厚生労働省の助言を受け、「ロコモチャレンジ！推進協議会」から当協会に調査を依頼されました。

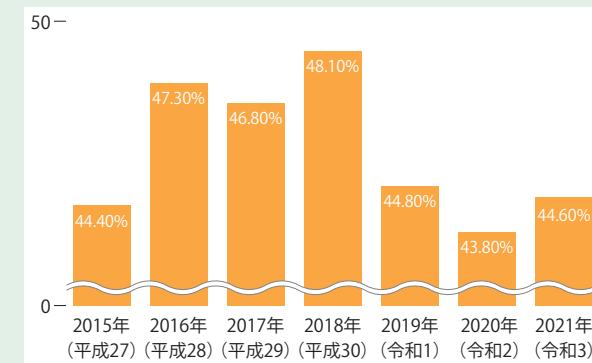
なお、ロコモティブシンドローム認知度調査

は、毎年3月、株式会社マクロミルによるインターネットリサーチで行い、全国の20～70代の男女合計10,000サンプルのアンケート回答を集計しています。

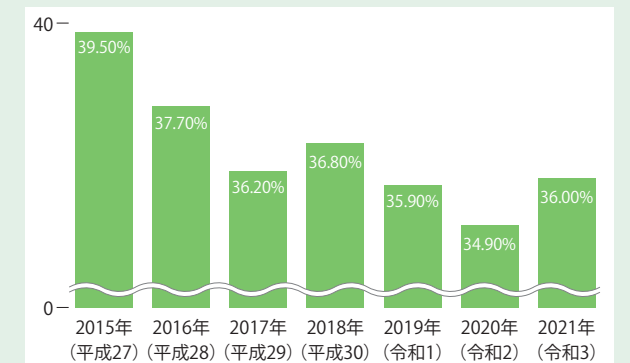
アンケートの質問項目は、「ロコモティブシンドローム」だけでなく「運動器」「骨粗鬆症」「脆弱性骨折」などさまざまな認知度も網羅しています。これまで行った計7回の調査結果の一部を下のグラフにまとめました。

● 2015（平成27）年～2021（令和3）年までの認知度推移

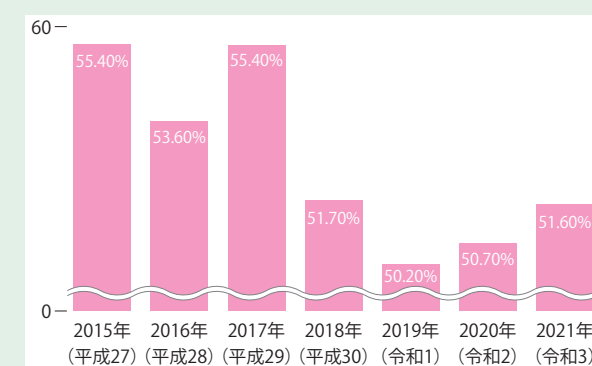
「ロコモティブシンドローム」認知度



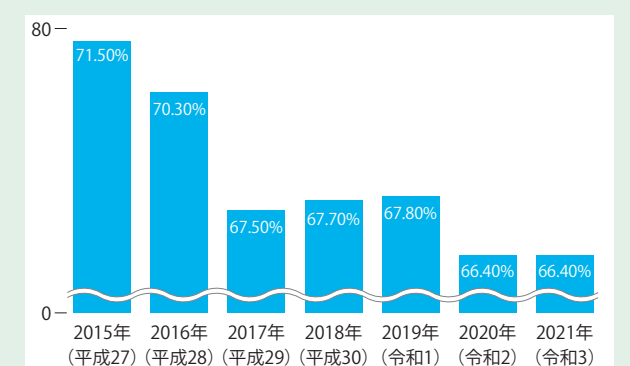
「骨粗鬆症」認知度



「運動器」認知度



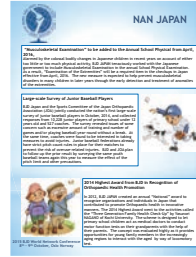
「脆弱性骨折」要因認知度



10月12・13日 BJD 国際会議がノルウェー・オスロにて開催され、三上容司理事が出席



右が三上理事



国際会議に提出した e-Poster

10月19日 臨時理事会（如水会館）で公益法人化を決議
11月 第一三共株式会社の協力により学校保健委員会で『親子のための運動器相談サイトのご案内』を監修、3万部制作、小学生を対象にしたグループなどに無償で配布



『親子のための運動器相談サイトのご案内』

11月26日 第4回理事会（如水会館）
12月1日 『Moving』第18号発刊
12月7日 「運動器検診お役立ちコンテンツ」Webで公開
12月7日 本郷ハイツから本郷二丁目・青木ビルに事務局移転
12月12日 臨時評議員会（如水会館）

2016

平成28年

1月30日 第1回理事会（明治記念館）
平成27年度 第4回「運動器の10年・日本賞」表彰式（明治記念館）



岩本理事長就任後の初の「運動器の10年・日本賞」表彰式

2月13日 第6回定時評議員会（如水会館）
3月1日 『Moving』第19号発刊
3月15日 ロコモティブシンドローム認知度調査実施
3月22日 第2回理事会（電磁的承認手続き）公益財団法人移行に伴う定款等の変更
3月28日 公益財団法人 運動器の10年・日本協会 認定



公益財団法人の認定書

3月29日 臨時評議員会（みなし決議）で定款ならびに「役員等の報酬規程」改正決議
4月1日 公益財団法人 運動器の10年・日本協会 登記
『学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き』第3版、1万部発行

4月10日 第3回理事会（如水会館）
第6回会員連絡協議会（如水会館）
5月 エーザイ株式会社協力による『マンガ 運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』紙媒体無償配布終了 Web掲載に切り替え 累計で22万部発行
6月1日 『Moving』第20号発刊
6月14日 第2次「少年野球（軟式・硬式）実態調査結果発表（長く野球を楽しむための10の提言）」
7月 DVD『少年野球選手のためのストレッチング9』が完成
7月14日 第4回理事会（如水会館）
8月25日 国際本部に e-Poster 提出
9月 「中学野球選手の実態調査」開始
9月1日 『Moving』第21号発刊
10月22・23日 BJD 国際会議がドイツ・ベルリンにて開催、当協会は不参加
10月27日 BJD 国際会議が中国・上海にて開催され、松田秀一理事と竹下克志理事が出席 協会活動紹介リーフレット5,000部制作
11月17日 第5回理事会（如水会館）
12月1日 『Moving』第22号発刊
12月3日 臨時評議員会（如水会館）

2017

平成29年

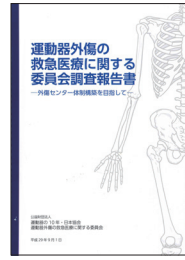
1月28日 第6回理事会（明治記念館）
平成28年度 第5回「運動器の10年・日本賞」表彰式（明治記念館）
2月8日 役員等候補選出委員会（本郷事務局）
2月12日 脆弱性骨折予防委員会が公募した二次骨折予防キャッチフレーズで、「NO! 骨折連鎖治療にGO!」を最優秀賞に選出、啓発ポスター4,000枚を全国に配布



二次骨折予防のポスター第1弾

2月16日 第7回定時評議員会（学生会館）任期満了による理事改選
2月18日 第1回理事会（学生会館）岩本幸英理事長を再選
3月1日 『Moving』第23号発刊
3月21日 ロコモティブシンドローム認知度調査実施
4月16日 第2回理事会（如水会館）
第7回会員連絡協議会（如水会館）
6月1日 『Moving』第24号発刊
6月6日 中学野球（軟式・硬式）実態調査結果発表、「中学生野球選手を障害・外傷から守る10の提言」
7月20日 第3回理事会（如水会館）BJD 国際本部の名称変更に伴い、当協会の名称を「運動器の健康・日本協会」と改称する方針を決定

- 9月1日 『Moving』第25号発刊
- 9月1日 運動器外傷の救急医療に関する委員会が海外視察をした報告書『運動器外傷の救急医療に関する委員会調査報告書』を300部発行、関係団体に配布



『運動器外傷の救急医療に関する委員会調査報告書』

- 10月 国際本部に e-Poster 提出
- 10月22・23日 BJD 国際会議がドイツ・ベルリンにて開催され、松下隆専務理事が出席



国際会議に提出した e-Poster

- 11月21日 第4回理事会（如水会館）
- 12月1日 『Moving』第26号発刊
- 12月9日 臨時評議員会（ステーションコンファレンス万世橋）
- 12月9日 「公益財団法人 運動器の健康・日本協会」名称変更（11日登記）

2018

平成30年

- 1月27日 第1回理事会（明治記念館）
平成29年度 第6回「運動器の10年・日本賞」表彰式（明治記念館）
- 2月17日 第8回定時評議員会（学士会館）
- 3月1日 『Moving』第27号発刊
- 3月20日 ロコモティブシンドローム認知度調査実施
- 4月15日 第2回理事会（如水会館）
第8回会員連絡協議会（同上）
- 6月1日 『Moving』第28号発刊
- 6月1日 協会の名称変更に伴い、二次骨折予防啓発ポスターを一新先の公募で優秀賞となったキャッチフレーズ『ストップ！骨折ドミノ』でポスターを制作、2種類のサイズ8,000枚を各所に配布した。
学校保健委員会監修の『学校の運動器検診—子どもの身体と障害の診かた』を発行（中外医学社）



二次骨折予防のポスター第2弾

- 7月19日 第3回理事会（如水会館）
定款変更「運動器の10年」を「運動器の健康」に変更
- 7月31日 臨時評議員会（電磁的承認）

- 9月1日 『Moving』第29号発刊
- 9月14日 成長期のスポーツ外傷予防啓発委員会で、全国各地の少年野球指導者講習会で講師として派遣する理学療法士の講師養成講習会を全国9ブロックで開催、第1回は東北・秋田県
- 10月22～24日 BJD 国際会議がカナダにて開催され、松下隆専務理事が出席
- 11月20日 第4回理事会（如水会館）
- 12月1日 『Moving』第30号発刊
- 12月8日 臨時評議員会（学士会館）

2019

平成31年・令和元年

- 1月20日 「運動器の健康・日本賞」審査委員会を開催（如水会館）
今年度から審査委員に報道機関（NHK、共同通信社）から2名が参画
- 1月24日 第5回理事会（如水会館）
- 2月3日 役員等候補選出委員会（学士会館）
- 2月7日 ホームページをリニューアルオープン
- 2月16日 第9回定時評議員会（如水会館）理事・監事・評議員の任期満了による改選
第1回理事会（如水会館）丸毛啓史理事長就任
- 3月1日 『Moving』第31号発刊
- 3月19日 ロコモティブシンドローム認知度調査実施
- 4月14日 第2回理事会（明治記念館）
第9回会員連絡協議会（同上）
2019年度第7回「運動器の健康・日本賞」表彰式（同上）



丸毛理事長就任後の初の「運動器の健康・日本賞」表彰式

- 5月 協会活動紹介リーフレットを改訂、4,000部制作
- 6月1日 『Moving』第32号発刊
- 6月15日 『学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き』第4版3,000部発行
- 7月18日 第3回理事会（如水会館）
- 9月1日 『Moving』第33号発刊
- 11月19日 第4回理事会（如水会館）



理事会の様子。左から、岡田理事、内尾理事、稲垣理事、池内理事、浅見理事

- 12月1日 『Moving』第34号発刊
- 12月7日 臨時評議員会（学士会館）

2020

令和2年

- 1月23日 第1回理事会（如水会館）
- 2月15日 第10回定時評議員会（如水会館）
- 3月1日 『Moving』第35号発刊
当協会理事らによるコラム「運動器のリレーエッセイ」がスタートした。
- 3月18日 ロコモティブシンドローム認知度調査実施
- 4月12日 第2回理事会・新型コロナウイルス感染症の拡大で中止
同じく第10回会員連絡協議会は中止

5月26日 成長期のスポーツ外傷予防啓発委員会がコロナ禍で少年野球選手のケガや障害を防ぐため、当協会ホームページで『自宅でできる小中学生野球選手の基礎トレーニング』を公開

コロナ禍で、少年野球選手のケガや障害を防ぐために、理学療法士が「家でできる基礎トレ」を作成し紹介した。内容は、「練習・試合再開までの基礎トレーニング ストレッチング9」と「体幹トレーニング」の2種類とした。



協会ホームページから

6月 『二次骨折予防手帖』発刊（2,000部発行、その後3,000部追加）→ P65 参照



マンガでわかりやすく二次骨折予防の重要性を紹介

6月1日 『Moving』第36号発刊

7月9日 第3回理事会（初めてのWebによる開催）

学校保健委員会が「学校における児童生徒の健康に関わる皆様への緊急提言」の発信協会リーフレットを改訂、4,000部制作

8月 『Moving』第37号発刊

11月14日 第4回理事会（明治記念館とWebによるハイブリッドで開催）

2020年度第8回日本賞表彰式（明治記念館 & Web）

12月 全国看護教諭連絡協議会の協力で長期休業が続いた子どもたちの心身の健康状態を調査

12月1日 『Moving』第38号発刊

12月5日 臨時評議員会（Web）

2021

令和3年

1月20日 2021年度第9回「運動器の健康・日本賞」の審査委員会（学会館 & Web）



コロナ禍のためハイブリッドで「運動器の健康・日本賞」の審査委員会を実施

1月21日 第5回理事会（学会館 & Web）

1月30日 役員等候補選出委員会（Web）

2月20日 第11回定時評議員会（学会館 & Web）理事の任期満了による改選

第1回理事会（学会館 & Web）で丸毛啓史理事長を再選

2月25日 サステナブル・ブランド国際会議 2021 横浜 / 宇宙飛行士・山崎直子さんと鼎談（横浜）→ P36 参照



サステナブル国際会議にて、左から三上理事、山崎さん、松下専務理事

3月1日 『Moving』第39号発刊

3月10日 『学校における運動器検診体制の整備・充実事業に関わる資料集成Ⅱ』発刊

3月17日 ロコモティブシンドローム認知度調査実施

4月18日 第2回理事会（如水会館 & Web）

第11回会員連絡協議会（同上）

2021年度第9回「運動器の健康・日本賞」表彰式（同上）



コロナ禍のためハイブリッドで表彰式を行った

新バッジの制作・配布（2,000個）



「運動器の健康」世界運動の新しいバッジ

5月1日 20周年記念誌編集委員会発足

6月1日 『Moving』第40号発刊

7月8日 第3回理事会・記念誌座談会

7月31日 オンライン・シンポジウム『児童生徒等の運動器の健康を守り、学校での重大事故を防ぐために』を開催

9月1日 『Moving』第41号発刊

10月1日 協会リーフレットを改訂、4,000部制作



『Moving』41号からデザインをリニューアル

宇宙飛行士・山崎直子さんを 迎え、「運動器の健康と幸せ」 について鼎談

2021（令和3）年2月24・25日（水・木）にパシフィコ・横浜ノースで「サステナブル・ブランド国際会議 2021 横浜」が開催され、持続可能性の先にある再生可能な社会や環境を目指し、さまざまなセッションが行われました。

この会議のセッションプログラムの約1時間の枠に、当協会も参加し、松下隆専務理事が座長となり、ゲストに宇宙飛行士の山崎直子さんを迎えて三上容司理事と鼎談を開催しました。テーマは「運動器の健康が人生100年時代の持続可能な社会を作る」。

コロナ禍の影響で世界中の人々の在宅時間が増えるなか、同じように国際宇宙ステーション（ISS）という閉鎖空間で長時間過ごした山崎さんの経験と、整形外科医である松下専務理事と三上理事の知見を通して、体を動かすことの重要性が改めて浮き彫りになりました。

例えば、加齢により筋力や筋量が萎縮する「サルコペニア」が運動器の能力低下の原因の一つとして懸念されていますが、三上理事によれば、宇宙はその対策のための実験場としても注目されており、骨や筋肉を強くする方法の応用が期待されているとのことでした。

骨や筋力の低下を防ぐため、宇宙では宇宙飛行士に毎日2時間の運動が義務付けられていま

す。山崎さんいわく、スペースシャトルの場合、トレッドミルや筋トレ用のマシンが設置されており、これらで毎日トレーニングすることで、宇宙飛行士は骨や筋力の衰えを低減しているとのことでした。

ちなみに山崎さんが宇宙から地球に戻ってきて最初に感じたのは「重力」で、頭はもちろん、髪の毛すら重たく感じたそうです。同時に、足の裏を通して伝わる地面の感触、肌で感じる風のそよぎなど、宇宙ではないこれらの感覚を思い出し、「地球という存在の尊さが身にしみました」と感慨深げに語っておられました。

最後は、「アリストテレスの言葉で“Life is motion”というのがあります。生きることは動くことである。体が動けば心も動く。健康寿命というのは幸せでいられる寿命ということでもあります。日々の生活を大事にして、より体を動かしたいですね」との松下専務理事の言葉に山崎さんが深く賛同の意を示して、来場者の盛大な拍手とともに鼎談は幕を下ろしました。



プロフィール

山崎直子 / 1970（昭和45）年千葉県生まれ。東京大学工学部航空学科卒業。同大学院航空宇宙工学専攻修士課程を修了後、宇宙開発事業団（現JAXA）に勤務。1999（平成11）年に国際宇宙ステーション（ISS）に滞在する宇宙飛行士候補に選ばれる。2010（平成22）年4月から15日間の宇宙飛行を行う。現在、宇宙政策委員会委員。